

日本小児科学会新生児委員会

委員長 飛弾麻里子

担当理事 日下隆、森岡一朗

**在胎 36 週 0 日以降に出生した新生児・乳児における
ビタミン K 欠乏性出血症の予防法ならびに症例に関する全国調査 のお願い**

日本小児科学会では新生児・乳児ビタミン K 欠乏性出血症の疫学調査、ならびに経口ビタミン K 製剤を用いた予防法を啓発してきました。2021 年に本学会ならびに関連学会では、肝胆道系疾患の早期発見に努めつつ、出生時より生後 3 か月まで週 1 回経口内服する予防法（いわゆる経口 13 回法）を共同で提言しました。前回の全国調査（2015－17 年）では、13 名の頭蓋内出血例が報告され、いずれも経口 3 回法でした。海外では出生後にビタミン K を 1 回筋注する方法が推奨されていますが、国内では筋注製剤は販売されておられません。本症で測定されてきた腫瘍マーカー/PIVKA-II は保険適用外となります。

今回、本学会では経口 13 回法が普及した状況での疫学、ならびに診療課題を調査します。任意の調査ですので、未回答の場合も不利益は生じません。本調査は香川大学医学部倫理委員会にて中央一括審査を受け、本学会理事会にて多機関共同研究の承認を受けて実施しております。協力機関は「既存試料・情報の提供のみを行う機関」に該当します。中央一括審査による実施許可は各機関でご検討下さい。後方視的観察研究のため対象者から直接同意を得る必要はありませんが、研究情報を公開し、拒否の機会を保障する必要があります。各機関では、研究情報をホームページ等で公開し、窓口を明示する等の対応をご検討下さい。本調査に関わる資金は学会経費等より拠出されます。調査結果は本学会ホームページ及び学会誌での委員会報告、ならびに学術論文誌、関連学会等で公開する予定です。

本調査の意義をご理解頂き、調査へのご協力をお願いします。

概要

1. 回答者 小児科代表者あるいは本症の診療に関わる医師
2. 対象 **在胎 36 週以降に出生した新生児・乳児で、ビタミン K 欠乏症が原因と思われる出血性疾患（頭蓋内出血、消化管出血など）の症例**
3. 項目 一次調査：本症の有無と診療に関わる課題、ならびに二次調査への協力意思（5 分程度）
二次調査：本症の個別診療情報（症例あたり 20－60 分程度）
4. 方法 調査は WEB（Survey Monkey）を使用します。
①一次調査：URL（<https://jp.surveymonkey.com/r/9HM3GF6>）あるいは QR コードより入力してください（**2025 年 10 月 31 日締切**）。
②二次調査：二次調査にご協力頂ける回答者へ一次調査でご回答いただいたメールアドレスに事務局より URL を送付します（**2025 年 10 月 31 日締切**）。
③未回答の回答者へ事務局よりリマインドさせていただきます。
5. 問い合わせ 日本小児科学会事務局 新生児委員会担当 jps-pmed@jpedso.or.jp

